

この学校にわたしたち

2022. 07. 12 N022

一言のちょっとした違いで…

子どもを育てる時に「ほめる」ことで子どもが伸びたり、やる気になったりするということはいろいろなところで言われています。しかし、子どもが今、何を思っているのかをしっかりと大人が分かっていないとせっかくほめたことが台無しになってしまうことになります。

皆さんは、子どもが部屋を片付けた時にどうほめるでしょうか？「部屋がきれいだね」と言うのでしょうか？それとも「片づけ上手だね」というのでしょうか？前者は事実・結果だけを見ているのに対し、後者は行為・課程を見ており、「もっと頑張ろう」とやる気につながり、これが『ほめることの意味』だと教育学者の斎藤孝教授は著書（『1分で大切なことを伝える技術』PHP新書）の中で、語っています。「100点ってすごいね」など子どもたちは結果でほめられると、無意識の中に「この結果でなければ大人にほめられない」という意識ももってしまいます。そうすると、結果が出せない時に自分はだめだという苦しみに陥ってしまうのです。

反対に「暑い中、よく頑張ったね」や「手伝ってくれて有難う」「助かるわ」などのほめ言葉は、自分が存在している意義（自己肯定感）を高め、前向きに活動できるエネルギーを育てていくことができるとともに良好な親子関係を作ることにもつながります。斎藤教授は、日本には賞賛文化こそ必要と述べ、“1日3人、それぞれ1分間以上、褒めよう”と提案されています。私も挑戦しましたが1人目で挫折をしました。1人1分ほめることは相当にその子のことを深く見ていないと難しいと痛感しました。

“思いは形にしてこそ価値を生む“と言いますが”わざわざ言わなくても”は「退く心」「逃げの心」と思います。”相手の善いところは、どこか”と考え、頑張っている教師や子どもをたたえていきたいと思います。

安全な登下校の見守りを有難うございました！

7月5日には誘拐メールへの対応を有難うございました。保護者の皆様には送迎をしていただくなどご心配をおかけいたしました。が、何事もなく1日を終え、ホッとしています。職員もパトロール班、付添班に分かれ、対応をさせていただくとともに学校運営協議会会長の前田さん、志村さん、ハッ山地区青少年を守る会の辻岡さん、富田さんも登下校の見守りにご協力いただきました。今後もこのような対応が必要な場合、油断せず、慎重に対応をしていきたいと思っています。今後とも皆様のご協力を宜しくお願いします。（写真は辻岡さん）

